

男女共同参画社会の実現に向けて 私たちができること

☑ チェックリスト



市民の取り組み

- 男女共同参画センター(サンエールかごしま)の講座・催しに積極的に参加し、一緒に男女共同参画について考えましょう。
- 男女が互いの人権を尊重しあい、相手の立場を理解し、助け合う心を育てる家庭教育に取り組みましょう。
- 審議会等の公募には、積極的に応募しましょう。
- 女性も自らの能力を磨き、自分の意見をはっきり主張して、社会に参画しましょう。
- 働くことへの意識を高め、能力発揮に努めましょう。
- 仕事中心の生活から、家庭・地域を視野に入れたバランスの取れたライフスタイルに転換しましょう。
- 育児・介護サービスを利用しながら家族みんなで助け合いましょう。
- 町内会活動など、地域の活動に積極的に参加しましょう。
- 地域において、男性優先の慣習を改め、男女ともに活動しやすい環境を作りましょう。
- 自分にできることから国際交流を実践し、国際理解を深めましょう。
- DVは人権侵害であるという意識を深めましょう。
- 暴力に気付いたら警察、配偶者暴力相談支援センター等に相談・通報しましょう。
- 悩みや問題は一人で抱え込まずに、相談機関を積極的に利用しましょう。

事業者の取り組み

- 男女雇用機会均等法を遵守し、周知に努めましょう。
- 育児・介護休業制度について従業員等に情報提供を行い、男性も含めて取得しやすい雰囲気づくりに努めましょう。
- 長時間労働の抑制など、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場づくりに努めましょう。
- 職場におけるセクシュアル・ハラスメントをなくしましょう。

現状の自分の認識と比較し、これらの取組を意識的に実践していきましょう!



事業報告

男女共同参画週間 フォーラムを開催

男女共同参画週間(6月23日~29日)にちなんで、男女共同参画社会を考えるフォーラムが6月24日(日)、サンエールかごしまで開かれました。第1部では子育てに関する講演会、第2部ではドメスティック・バイオレンス(DV)についての調査報告があり、参加した約80人は熱心に聞き入っていました。

第1部・講演会 「認め、褒めることで子どもの心は育つ」



講師の菊地政隆さん

第1部の講演会では、男性保育士の先駆者で東京・すみだ中和こころ保育園園長、秋草学園短期大学特任准教授の菊地政隆さんが「夫婦で取り組む子供のこころの育て方~男女共同育児が当たり前になる社会を目指して」のテーマで話されました。

菊地さんは大学卒業と同時に当時珍しかった男性の保育士として就職したものの、「子どもの産めない男性に保育の仕事ができるの?」といった保護者の声や、女性保育士ばかりの環境になじめずに1年目で挫折。一時、保育の仕事から離れたものの、受け持っていた子どもの保護者から「うちの子どもは先生と遊ぶのが楽しみで保育園に行っていた」と言われて保育士の仕事に復帰した経験を紹介。「保育は大人の都合ではなく、目の前の子どものためのもの。男女とも本当の価値は自分らしさ。保育士として自分らしく子どもたちに関わっていくことが大切だと気づいた」と語りました。

また最近の事件・事故や学級崩壊を例に、自分の気持ちをコントロールできずに幼稚化している大人や、他人への迷惑に気づけない子どもが増えていることを指摘。「大人の利便性追求やコミュニケーション欠如が子どもたちに影響を与えていることを意識し、子ども

の心を育てるように関わり方に気を付けてほしい」「子どもたちにとって毎日がドラマ。保育士の仕事もドラマがいっぱい詰まっている。子育てではそのドラマに気づいてほしい」と呼びかけました。

また子育てのキーワードとして「子どもをいっぱい褒めること、認めること」の大切さを強調。褒められた経験をした人は人を褒めることができる。認められた経験をした人は人を認めることができる。叱られた経験のある人は人を叱ることができる。まず自分の子ども、周りの子どもを褒めてほしい。そうすれば良い循環が生まれ、子どもたちの心が大きく育つ」と語りました。

自ら育児休暇を4カ月間取った経験から、「よその子どもの保育と、自分の子どもの育児とは全然違う。それだけに育児には心のゆとりが必要。ゆとりを持って子どもを認めることで子どもの心は育つ。子どもたちが6歳になるまでに褒めて、認めて、思い出を積み重ね、子どもの心を育ててほしい。その結果が出るのは10年後、20年後。保育も子育ても子どもたちの未来をつくり、未来を変える仕事」と強調しました。



第1部・講演会

第2部・調査研究支援事業報告会「自尊心の高さがDVからの回復促す」

第2部では、臨床心理士など対人援助職従事者などで作る鹿児島市の「インタラクショナル・ピュウ研究会」(丸田なつき代表)によるDV被害経験者の自己コントロールの回復に関する調査研究が報告されました。この調査は、過去にDV被害を受けた経験を持つ九州内の女性を対象に今年1~2月にアンケートし、84人から回答を得たものです。

報告では、DV状況にある被害者・加害者間に特有の関係性(一方が他方をコントロールする関係)について検討がなされ、DV被害者の特徴として、コントロール感にとらわれ自尊感情を高められず、被害の後遺症を継続的に経験することが示されました。調査結果として、直接的に被害者の自尊感情を高めることの難しさを踏まえ、コントロールへのとらわれに焦点をあてることで回復を促すという支援の手がかりが示されました。



第2部・報告会

女性のための 再就職応援セミナー



「女性のための再就職応援セミナー」の最終回が7月6日(金)開かれました。講師はワークプラザ天文館マザーズコーナーかごしまの竹元美由紀さんで、仕事の選び方、働き方を実際に自己分析してもらうなど、参加者一人ひとりが具体的にどんな仕事を選び、再就職にどう向き合うか、そのために何が必要なのかを実践的にサポートするスタイルで行われました。

また求人情報を得るためのノウハウや、履歴書やPR書の書き方などすぐにも役立つアドバイスもあり、参加者の皆さんは熱心にメモをとっていました。

パパ大好き♡泣く子も笑う ハッピーマイルセミナー



「パパ大好き♡泣く子も笑うハッピーマイルセミナー」の第1回が7月7日(土)開かれ、10数組の家族が参加。市立城南保育園の保育士の皆さんと一緒に、手遊びやふれあい遊びを通じて親子のコミュニケーションを深めました。

同セミナーは全3回で、「写真の撮り方」「ベビーマッサージ」を学び、男性の積極的な育児参加を応援しました。

サンエールプチシネマ

7月のプチシネマでは「さよなら、アルマ」が午前と午後の2回上映されました。軍用犬として出征し、戦争に翻弄された1匹の犬アルマとその周りの人々を通じて戦争の悲惨さを描いた作品に、会場の皆さんは感慨深げに見入っていました。

サンエールかごしまでは毎月1回、無料映画上映会を開催しています。定員50人で申し込みは不要です。託児サービスもあります。上映会、託児共に当日先着順となっています。

今後の上映予定作品(※すべて木曜日)

10/18 黄金花	1/17 海角七号
11/15 プルミエール ~私たちの出産~	2/21 パークアンドラブホテル
12/20 アボンリーのクリスマス	3/21 ジェイン・オースティンの後悔